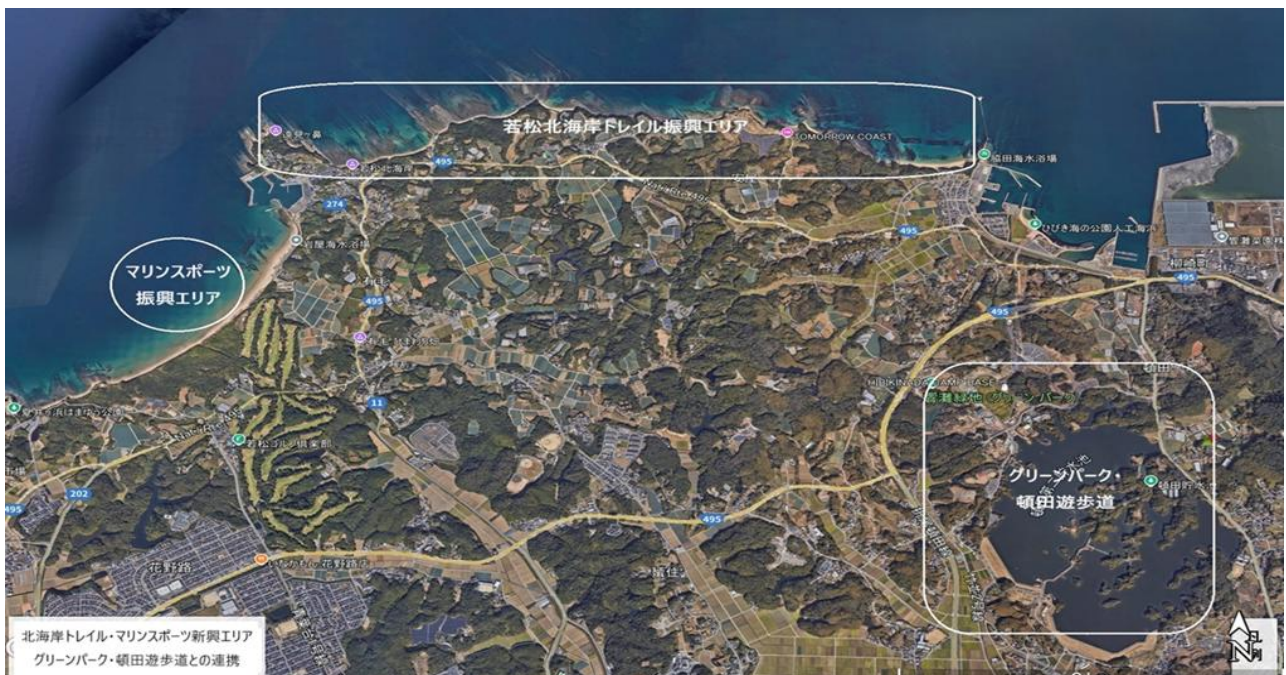


若松北海岸地域の観光回遊性を高めるための試案

I. 概要

若松北海岸地域は、緑豊かなグリーンパークや頓田貯水池、洋上風力発電と夕陽が臨める脇田海岸、マリンスポーツが盛んな白砂の岩屋海水浴場など、魅力的な観光エリアが隣接している。こうした特性を踏まえ、活力ある地域づくりを進めるためには、各観光スポットを有機的に連携させ、地域内での回遊性を高めるための包括的な取り組みが必要であろう。

さらに、地域の人々が地元の観光資源を活用して旅行商品を開発・PR するといった「着地型観光」のまちづくりが注目されるなか、訪問者の滞在時間を延ばし、観光による経済効果を地域全体に波及させる「しくみ」づくりも重要である。北海岸地域の人々が地元の観光資源に磨きをかけて魅力を増大させ、地元主導による滞在型観光の推進に繋げていくことが、「稼げる」地域実現に向けた課題であると言える。



II. 現状分析と課題

● グリーンパーク・頓田遊歩道エリア：

市内最大級の敷地に大芝生広場や熱帯生態園、バラ園などを配したグリーンパークは、開園から 30 余年の歴史を誇る都市型大規模公園であり、自然体験、環境学習、家族向けレジャー施設として年間 50

万人の行楽客が訪れている。また、隣接する頓田貯水池は自然観察やバードウォッチングなど、四季折々の風景が楽しめる「癒しの空間」として親しまれ、全長約5kmの散策コースが整備されている。

● **マリンスポーツ振興エリア：**

サーフィンやボードセーリングなどが楽しめる岩屋海岸はマリンスポーツのメッカであり、透明度の高い海と白い砂浜が魅力の海水浴場でもある。毎年5月に実施される海岸清掃活動(ラブアース・クリーンアップ)には多くの市民が参加し、美しい夕日が織りなす風景は写真愛好家の人気スポットになっている。

● **若松北海岸トレイル振興エリア：**

沖合に伸びる釣り桟橋が印象的な脇田海水浴場から遠見ヶ鼻までの海岸線は、洋上風力発電施設の眺望や夕陽の絶景、千畳敷など、フォトジェニックな景観が広がっている。また、遠見ヶ鼻の灯台周辺には三千万年前の地層や貝類の化石が露出し、太古のロマンを感じさせる場所でもある。しかし風光明媚な海岸線も、散策できる海浜遊歩道が整備されていないことから認知度が低く、言わば「宝の持ち腐れ」といった感がある。全長約6kmの海岸線を巡る遊歩道(北海岸トレイル)が完成すれば、北海岸地域全体の観光資源が有機的に繋がり、地域の回遊性を高めることができるため、観光インフラとして具体的な整備計画が急がれる。

● **国道 495 号線の役割：**

北海岸地域を東西に走る国道 495 号線は地域の利便性を高めている反面、訪れる人たちが北海岸線の魅力に気づかないまま通り過ぎてしまうケースが多い。こうしたことから路線上に点在するバス停に観光スポットをモチーフにしたデザインを施したり、周辺商店や会社などの PR 広告でラッピングした EV 循環バスを運行するなど、495 号線を北海岸地域全体の観光 PR 道路として、衆目を集めるような施策を展開する。

● **観光・回遊の起点になるカフェの誘致：**

地域おこしに果たすカフェの役割が注目されるなか、北海岸地域の観光スポットや休憩場所にカフェがあれば、訪問客の滞在時間が延びたり、地域の回遊性向上にもつながる。しかも、最近のカフェは単なる「飲食店」の枠を超え、地域の人々や訪問者が情報交換や交流する場、地域の魅力や資源を発信する場、地元での新たな経済活動や雇用を創出する場、文化の継承と創造を促す場として、地域の活性化や持続可能なまちづくりにおいて重要な役割を担っている。こうした点から、「芸術・文化を育む拠点」として北海岸地域の将来像を描き、これを新たな観光資源にするためにも、複合的な大型カフェの誘致が必要であろう。

Ⅲ. 施策提言

本提言は、脇田海水浴場から遠見ヶ鼻に至る海浜遊歩道の整備を前提にしているが、北海岸地域の各エリアを有機的につなぎ、地域の回遊性を高めることを狙いとしている。したがって、海浜遊歩道が未整備な現状であっても、以下に述べる施策は北海岸地域の魅力向上と活性化を図るうえで重要である。

1. 緑と潮騒を楽しむ「北海岸地域周遊散策コース」の設定

脇田海水浴場から遠見ヶ鼻に至る海岸線に遊歩道を整備すれば、響灘緑地の深緑と北海岸の潮騒が満喫できる全長約 22 kmの散策周遊コースが完成し、北海岸地域の魅力をいっそう高めることができる。また、グリーンパーク北駐車場を発着点にして、ひまわり畑前まで循環する EV バスを運行することによって、地域の回遊性が高まり、集客力向上につながる。

● 北海岸地域周遊散策コースの詳細

- ① グリーンパーク(南ゲート)→頓田貯水池外周コース→グリーンパーク北駐車場まで(約 7km) (※ この区間は鬱蒼とした常緑樹の空間を歩きバードウォッチングを楽しむことができる)
- ② グリーンパーク北駐車場→SIOIRI(物産店)→八幡岬(釣り桟橋入口)まで(約 2km)
- ③ 八幡岬→脇田海水浴場→Tomorrow ビーチ→千畳敷海岸→→遠見ヶ鼻灯台→亀の井ホテル玄界灘→ひびき灘漁業協同組合岩屋支所→岩屋海水浴場→有毛ひまわり畑前まで(約 7km)
(※ この区間は広大な響灘の潮騒と洋上風力発電、千畳敷や夕陽の絶景などフォトジェニックな景観が広がり、遠見ヶ鼻の御崎神社付近の海岸線には三千万年前の地層や貝類の化石が露出し、太古のロマンを感じさせる)
- ④ 有毛ひまわり畑前からグリーンパーク北駐車場までは EV 循環バスを利用(約6km)
- ⑤ グリーンパーク北駐車場→グリーンパーク内を通過して南ゲートへ
(※ グリーンパークでは大芝生広場や熱帯生態園、バラ園のほか、四季折々の自然体験イベントが楽しめる)

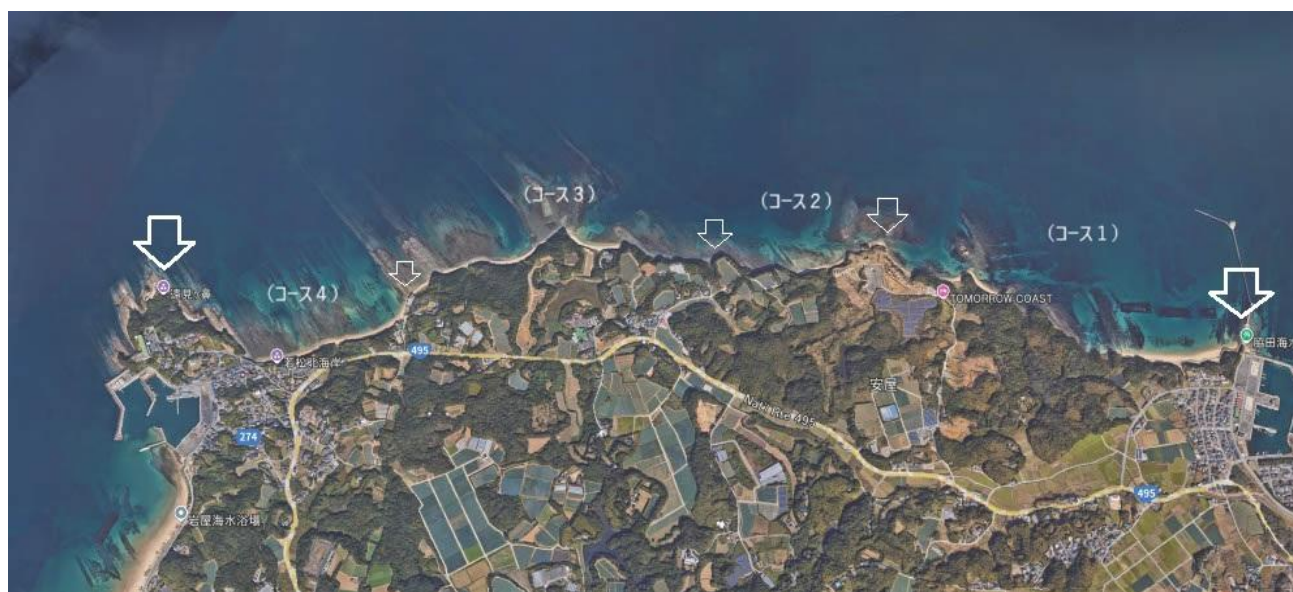
<北海岸地域散策周遊コース図>



赤線(グリーンパーク北駐車場からひまわり畑前まで)は北海岸散策コースを表す。国道 495 号線上の黄線(ひまわり畑前からグリーンパーク北駐車場まで)は EV 循環バス(中型)の運行ルートを表す。茶色の線は国道 495 号線から海岸線に繋がる道を表す。青色の矢印は国道 495 号線上に点在する市営バス停を示す。

●「若松北海岸トレイル」コースの詳細

釣り桟橋・脇田海水浴場から遠見ヶ鼻灯台に繋がる全長約6kmの海岸線に海浜遊歩道が整備された場合、訪れる人々の都合にあった海浜散策を提供するため以下の4コースを設定する。



<「若松北海岸トレイル」コース配置図>



<コース1> 約 2.4km

脇田漁港駐車場→釣り桟橋(脇田海水浴場)→Tomorrow
ビーチ→後バス停

※ 後バス停から EV 循環バスを利用して脇田漁港駐車場
→グリーンパーク北駐車場へ



<コース2> 約 3.0km

脇田漁港駐車場→釣り桟橋(脇田海水浴場)→Tomorrow
ビーチ→安屋→逆水バス停

※ 逆水バス停から EV 循環バスを利用して脇田漁港駐車
場→グリーンパーク北駐車場へ



＜コース3＞ 約 4.0km

脇田漁港駐車場→釣り桟橋(脇田海水浴場)→Tomorrow
ビーチ→安屋→千畳敷→千畳敷海岸入口バス停

※ 千畳敷海岸入口バス停から EV 循環バスを利用して脇
田漁港駐車場→グリーンパーク北駐車場へ



＜コース4＞ 約 5.4km

脇田漁港駐車場→釣り桟橋(脇田海水浴場)→Tomorrow
ビーチ→安屋→千畳敷→遠見ヶ鼻灯台→亀の井ホテルバ
ス停→新屋北口バス停

※ 新屋北口バス停から EV 循環バスを利用して脇田漁
港駐車場→グリーンパーク北駐車場へ

2. 北海岸観光エリアを結ぶ EV 循環バスの運行

地域にふさわしい環境配慮型の EV 循環バスを導入することで、各観光エリアを有機的に繋ぎ、北海岸地域全体の魅力を向上させると共に、「動く広告塔」としてラッピングバスを運行し、地域 PR と一体化した運営を行なう。また、将来的には JR 若松駅を発着点として、若松区内の主要観光スポットを巡る循環バスとして持続可能な観光エコシステムの構築を図る。

● 導入の意義と効果

＜環境面の効果＞

- ・ EV バスの導入により CO₂排出ゼロ、騒音も少なく自然環境への負荷を低減
- ・ 地域の環境保全意識を高め、「環境共生型観光地」としてのブランド価値が高まる。

＜観光面の効果＞

- ・ 徒歩で移動しにくい観光エリア間のスムーズな移動が可能になる。
- ・ 高齢者やファミリー層の移動負担を軽減することにより幅広い来訪者層に対応
- ・ グリーンパーク駐車場に車を止め地域内での散策を奨励し、滞在時間の延長及び消費を促進

＜地域振興への波及効果＞

- ・ 地元の商店・会社・施設のラッピングを施した EV 循環バスを運行することで、地域 PR と一体化した持続可能な観光振興に寄与

- ・ EV ラッピングバスや景色を SNS でシェアし、北海岸地域の露出増大と観光客誘致に貢献
- ・ 車内で地域の特産品や飲食店などのプロモーションを行うことで地域経済の活性化に寄与
- ・ 北海岸地域で行われる各種イベントの車内告知を通じて地域の回遊性と滞在時間の向上に貢献

● 導入する循環バスの概要

- ・ 車両タイプ： 中型 EV バス(定員約 20～25 名)
- ・ 運行区間： グリーンパーク北駐車場から有毛ひまわり畑前までの区間を循環運行
- ・ バス停留所： グリーンパーク北駐車場(始点)→脇田→後→逆水→千畳敷海岸入口→新屋敷北口→ 有毛ひまわり畑前→新屋敷北口→千畳敷海岸入口→逆水→後→脇田漁港駐車場前→SIOIRI 前→グリーンパーク北駐車場(終点)
- ・ 運行時間帯： 9:00～17:00(60 分間隔、土日祝中心、繁忙期には 30 分間隔)
- ・ 運賃： ワンコイン(100 円)

● 運行財源の確保について

- ・ EV 循環バス導入にかかる費用は行政補助金や地域企業の協賛によって確保
- ・ 環境省や観光庁など、政府機関の補助金制度を活用
- ・ 地元商店や企業、施設などのラッピング広告協賛
- ・ 地域住民との連携イベントを通じたクラウドファンディングを活用



＜中型 EV 循環バスのイメージ＞



＜EV バスのラッピングイメージ＞

＜EV 循環バス運行の狙いと効果＞

目 的	施策内容	期待される効果
観光 PR	EV バス・バス停の話題化	メディア露出・SNS 拡散効果
地域経済波及	商店・企業・施設との連携	地元産品・サービスの利用増、カフェ等の誘致
市民参加	デザイン公募・イベント	地域愛の醸成とプロジェクトへの共感形成
財源確保	ラッピング広告・協賛	継続的な運行費の補填

3. 国道 495 号線沿いのバス停に関するアイデア

国道 495 号線を北海岸地域全体の観光 PR 道路として衆目を集めるようにするには、下記の理由により沿線に点在するバス停を「インスタ映え」するデザインに変更する必要がある。

＜観光資源への認知度向上＞

バス停に観光スポットのデザインを施すことで、通行人やバス利用者に対して「この周辺にどんな魅力があるのか」を視覚的に伝えることができる。特に地元以外の人々にとっては、地域の見どころを知るきっかけになる。

＜回遊性の促進＞

観光スポットの案内やビジュアルがあることで、「少し寄ってみよう」と思わせる効果があり、複数のスポットを巡る動機づけにつながる。これにより、地域内での滞在時間や消費額の増加が期待できる。

＜地域のイメージアップ＞

デザインされたバス停は、地域の魅力や個性を表現する「ランドマーク」になり得る。SNS 映えや写真撮影スポットとしても機能するため、地元情報の拡散にも貢献する。

＜移動手段としてのバスの価値向上＞

観光資源と公共交通が結びつくことで、「バスで回る観光スタイル」が形成されやすくなる。EV 循環バスの導入と連動させることで、持続可能な観光モデルの構築に寄与する。

＜バス停デザインの市民参加型プロジェクト＞

各バス停を「まちのギャラリー」として個性あるデザインにするため、地元アーティスト・住民・子どもたちとコラボし、アートによる街の魅力向上を実現する。

以上の観点から、国道 495 号線沿いのバス停デザインには、潮騒、風力発電、夕陽、灯台、化石といった北海岸を特徴づけるモチーフを取り込んだデザインが適している、また、夜間でも美しいビジュアルを保つよう屋根部分に LED ライトを埋めこんだり、バス停の一部に地域の風力発電や化石に関する情報説明を表示するディスプレイを組み込んだりすれば、観光客や地域住民に対して教育的な役割を果たすこともできる。さらに、バス停周辺に地域特有の植物を植え、風力発電と自然の調和を感じさせる空間を作り出す。こうしたデザイン要素を組み合わせることで、美しく機能的なバス停が誕生し、観光地としての魅力がさらに引き立ってくる。



＜各バス停のイメージ図＞

4 若松北海岸地域を通る国道 495 号線のバス停デザイン公募要項(参考事例)

【公募の意図】

若松北海岸地域は、美しい夕陽、雄大な海岸線、歴史・自然・産業が融合する魅力的な観光エリアです。近年では、洋上風力発電や環境学習などの新たな動きも見られ、持続可能な地域づくりに向けた取り組みが進められています。

国道 495 号線は、この地域の主要な幹線であり、観光客や地域住民の移動を支える重要な交通軸です。この度、地域の魅力をより多くの人に伝えるとともに、訪れる人々が移動の途中でも「地域らしさ」を感じられるよう、沿線バス停のデザインを公募します。

バス停を、単なる「交通インフラ」ではなく、「地域の顔」として捉え、訪れる人々の記憶に残るようなランドマークへと昇華させることが目的です。

【公募チラシ文面案】

あなたのデザインが地域のランドマークに！ 若松北海岸 国道 495 号線バス停デザイン公募開始！
美しい海岸線、雄大な自然、そして最先端のエネルギー。 若松北海岸には、響灘に広がる風景とストーリーがあります。そんな地域の魅力を、通る人・待つ人・訪れる人に伝えるために、バス停の新しいデザインを公募します！

募集テーマ:「地域の魅力を伝えるバス停デザイン」

ー 潮騒、灯台、夕陽、風力発電、化石、地域の歴史・文化などを反映したデザインを歓迎します。

対象路線: 国道 495 号線(若松北海岸区間)沿いの既存バス停(7 カ所)

応募資格: 個人・グループ・プロ・アマ問わずどなたでも応募可能

応募方法: 専用応募フォームまたは郵送にて、A3 サイズのデザイン案(PDF または紙)を提出

※詳細は下記 Web サイトまたは募集要項をご確認ください。

表彰・特典: 最優秀賞:デザイン採用+副賞、優秀賞(若干):記念品